森の名手・名人シリーズ39

名人　須賀　均（62）
岐阜県岐阜市

聞き手　森　拓郎
愛知県立木曽川高等学校2年
平成22年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、45名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

桧皮採取原皮師（ひわださいしゅもとかわし）
ヒノキの力

1. 日本の文化・歴史

平城京跡ってのが今年1300年祭りって聞いたことあるでしょ。1300年も前からそういう都には天皇や神様が住む建物がたくさん建ってるんだよ。それが全部桧皮葺（ひわだぶき）なのよ。そこの大極殿から比較的近いところに建っている桧皮葺が当時の古い工法で葺いているんだけどね。一般の人だったら板並べて石を置いたりしてね、簡素な屋根だったと思うのよ。でも儀式が行われるっつーと瓦だったんだね。でも天皇が住むとかの建物はほとんど桧皮葺だったんだよ。お月見するための月見殿とかね、こういうふうな生活するところは桧皮葺だったの。

それが結局まあ美しさとかいろんな理由があったんだね。長持ちもするよね。だから今でもそうだけど、当時も大変な手間や暇がかかったと思うんだよね。そういうものはいいものとされるし、人間が住みやすかったと思うんだよね。今現在で残ってるっていうと、神社の本殿とかお寺さんの本堂とか、拝殿とかにも残ってるんだけれども、有名なところでだと京都の清水寺。近畿圏にはね、数年前に世界遺産になった建物もたくさん桧皮葺なのよ。このような仕事が当たり前にたくさんあるわけ。要するにお寺さんや神社の建物は大きいし立派でしょ。そういうわけで近畿地方で私は修業したってことだよ。

それから古いもの、古代建築に凄く関心があったの。私は最初はそれがためにとび職をやったり、改築したりするために丸太で足場を組んでね。そして世間でいう宮大工さんの仕事もしたりして、そいでこの仕事に出会って、教える人に出会ってそれで今に至るっていうことだね。元々はやっぱり古代建築が好きだったっていうことかなあ。

2. 山での一日

実際には出張してるときが多いのよ。こっから通うんだったらば、1時間くらいならまあ通えるかもしれないけど、こっから2時間だとしたら通うのに大変じゃない？　大体仕事は8時から、あと終わりは暗くなったらできないからね。で、春夏秋冬で暗くなる時間は違うからね。まあ今だったらば、外は5時っていうと少しうす暗くなるのかなあ。でも山の中っていうのは、4時半はもうかなり暗いからな。4時半くらいまで木に登って仕事して、剥いた皮を片づけて終わりにするっていう。

それでね、この仕事って物凄い体力使うわけ。自分の腕で自分の身体を完全に支えられないと無理ってことになるわけだよね。懸垂なんか10回くらい当たり前にできなきゃならないわけだよね。そのくらい腕力とか腹筋とかすごく使うのよ。長時間やるのは物凄い大変なの。

で、8時からやって12時までやったとしても、私なんか慣れてるからその場で普通にやりきることができ、配分とかできるんだけどでも、慣れない子だったら8時から12時までやったらバテバテになって、午後仕事にならないとかね。だから、1、2時間やったら休憩しないといけないしね。で、大抵の子は慣れてもうたくさん仕事するようになるとお昼食べたら即行に昼寝してるね。もう熟睡くらいに疲れているね。

山の中で木に登って仕事してるから自分の意思じゃなくて、木の都合で仕事するわけ。皮を剥いている仕事でしょ。それで結構上まで行かなきゃならんかった時に、いちいちお昼だからって下りてくるわけにいかないの。下りたらまた登らなきゃいけないから。ロープ1本でやってるからね。8時過ぎからやって午後2時から3時までやったこともあるの。15、20m から高さがあるところなんてそのくらいかかってしまうね。逆にこんな細い木でもうちょい高い木だったら、10時前に終わってしまうとかね。

そんときの状況で違うんで確実に12時に食事とも限らない。自分でわかるわけ。やる前にこいつは時間かかるなあと思った時には食べ物を持って水を持って登ったり。あるいは、紐だけ持っていって登ってて、一人誰かがいればその紐を下ろしてそこにくくりつけて引き上げる。最近はもうね、そういうハードにやるとなかなか若い人が大変みたいなんで、私もお昼頃には終わりにして下りるようにしてるけどね。大体1時間くらいの休憩をして、あと夕方はうす暗くなる前に終わるね、危険だからね。真っ暗になってしまうからね。ま、そんな感じで今だったら、現場を出て車に乗って戻るには5時にはなってないかもしれない。

3. 良質な桧の皮を採りたい

今一番の私の本音はやっぱり弟子を育てることだね。一人でも優秀な弟子が育つことかなあ。もう少し前だったら、やっぱり自分の採った皮が、少しでも良質のもの採らなきゃならないんだけど、それがまあ一般の方がかなり知ってるところで使われるっちゅうことかな。

例えば今、出雲大社の屋根の葺き替え工事をやっているのよ。何年かの計画で、それを数年前に我々、会社の方からそこを修理するんで材料が必要ですと、そのための材料を採りますと。出雲大社をやるがために我々は材料を採るわけ。私の採ったものがその屋根にのる、神様のお住まいの屋根になる、そこに使われるっていう喜びがあるよね。

いろんな学者や先生たちが調べたとこによると1300年の歴史はあると言われているの。この桧の皮で屋根にちゅうこと。立ってる木から採るわけだからね。倒した木じゃないからね。生きてるのを採ってそのまんまこういう色になるんだけど、10年サイクルでまた皮が採れるのよ。1本の木がもし200年生きてたら、10年ずつ10回採ったら100年は剥いてるかもしんないわけ。で、そういうのできますって、今から千何百年も前に考え付いた人がいるわけだよね。

屋根に乗るでしょ。だから防水効果があるんだよね。雨が降っても漏らない。屋根を葺くでしょ。大体30年も40年も持つのよ。ものによっては50年もこのまま大丈夫なところもある。それだけ長い時間持つのはいろんな面で優れている。それが桧だからだよね。

それと立って生きてる木から皮だけ採れるっていうのも、なかなかないのよ。例えば杉の木を同じように皮採ろうとすると身まで採れてしまう。そうすると木は枯れてしまう。これ採られてあとの部分だよね。これ皮だけを採ってるわけ。このっから下、甘肌っていうんだけどね。ここが蟻がすごい寄ってきたり、いろんな虫たちもこれかじったりするの。甘いからね。

剥いた桧皮

桧皮採取の様子

こっからわずかな部分しか木は生きてないのよ。形成層っていう部分しか生きてない。だから切っても生きているのはわずかなんだよね。それで真ん中からどんどん木って死んでいくわけだよね。生きてくのは外側だけなんだよね。外へ育つわけなんだから。だから水があげてるのは木の縁だけなのよ。真ん中が年輪で外へ外へ育っていく、だからその上につく表面が今一番の表面が皮になるわけなのよね。一番外側の皮を採ってしまうでしょ。今度、この赤い部分が一番外側になるわけ。で、10年ぐらいでこういう厚さになると。だからこの生きている部分を除いた方がここに採れるっていうのは無いんだよね、他にね。

しかもこれに繊維質と防水効果、油分がすごいんだよね。木も凄いし燃やすとすごい火力が強いのよ。そういったことで屋根に適しているっていうのを実際にだよ。今から千何百年前に100年かかったのか500年かかったのか1000年かかってそれを考え付いたかわからないけどね。そういう理由があって桧の皮ってね。だから杉はそういう効果が無いってことだよね。

この皮って実際はものすごく薄くするんだよ。1㎜ちょっとだね。それを重ねてこの屋根のやってるところに使うんだよね。物凄く薄い皮を重ね合わせてこんなんして。釘を打つ時の金づちってあるでしょ。屋根をやるときはこんな形、さいころみたいに四角。竹の釘を打つ専門のもの。

4. 危険な命がけの仕事

まずロープ1本で上がる仕事だから危険なのもすごいよね。落ちたら死んでしまうわけだからね。それと皮をこうやって見ればわかるように刃物持ってるよね。鉈っていうんだけど普通、鉈っていうと叩いて切るよね。刃がついてね、我々は叩くんじゃなくって鉈とは呼んでも包丁なんだよね、スーっと切れる。そういう間で砥いできれいにするわけ。だから手を切ったり足を切ったりなんてのは、そんなに珍しいことじゃないわけ。4針縫った5針縫ったっていったって驚きもしない。だから怪我しないように物凄い気をつけることだね。

そして自然の生きてる木を相手に仕事をしてるわけだから木をも大事に扱うってこと。木だってね、傷つけてしまったら何も言わないけど痛いかもしれないじゃない。私にとってこの桧、山の木というのは大事な仲間たちだから。やっぱり優しく扱って、要するに木と語り合いながら、木も自分も怪我をしないように安全に仕事していこうっていう、それはすごくあるね。

名人　須賀（すが）　均（ひとし）さんのプロフィール

●生年月日：昭和23年3月5日生まれ
●職業：桧皮採取原皮師

須賀氏は、現在全国で30名程度しかいない桧皮採取原皮師であり、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な選定保存技術者である。

桧皮採取原皮師は、1000年続く伝統の技法で、伝統の道具を使って、樹齢100年から300年の桧の立木から樹皮を採取する。採取の際は、木を傷めないよう、形成層を残し、外樹皮を採取する。一度採取しても10年程度で樹皮がもとのように生成される。

須賀氏は、桧に養分が上がらない時期（7月下旬から翌年5月上旬まで）に、岐阜県内をはじめ、静岡、山梨、長野、宮城など全国各地を巡り、境内林、民有林、国有林等の桧から年間4500kgの桧皮を採取している。

採取した桧皮は、田中社寺㈱にて加工され、全国各地の伝統的建築物の屋根葺材として使われる。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒崎隆司】